

# 第38号

発行  
北九州地区  
信徒徒職協議会  
会長 追立 泰治  
編集  
北九州信徒協広報部  
担当司祭 中村 彰  
担当委員 岩本 光弘

## カトリック 北九州地区

# 信徒協だより

News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

### 主な内容

- 1面 正義と平和全国集会報告
- 2面 正義と平和の感想  
震災被災地支援活動
- 3面 カン・ウイル司教講演①
- 4面 英語のページ
- 5面 北九州平和の集い
- 6面 司祭紹介  
共同回心式日程  
ニュースあれこれ

## 第38回正義と平和全国集会 2014福岡大会を終えて

# 3日間 延べ23000人の熱意で盛り上がる

9月13日~15日



中村彰実行委員長

### 【見えてきた今後の課題】

## 正義と平和を促進していくための具体的取組

### 【大会3日間の流れ】

大会初日は午後2時から。

宮原良治司教挨拶と勝谷太治司教メッセージ、中村彰実行委員長の挨拶の後、「東アジアの平和と福音的展望」をテーマにカン・ウイル司教の基調講演に入りました。(講演の要約を三面に連続掲載します。)その後、3人の高校生平和大使による力強い発表に会場からは大きな拍手が響きました。

少し休憩をはさんで午後6時半から交流会が始まり、並べられた手料理は大好評でした。全国からの参加者の交流を深めるひとときでした。  
2日目は大きく分けると2つのコースが用意されていて、現地訪問学習と教会で

の講演や分科会です。カテドラルでは、ミサに続いてマイケル・シーゲル神父が「イエスが望む教会と社会との関わり」で講演を行いました。参加者は昼食をはさんで、10の分科会会場へと分かれます。どの会場も活気に溢れていたようです。

現地学習グループは、午前8時半頃から順次出発しました。カン・ウイル司教は「筑豊」に参加。夕方5時前後には、分科会や現地学習参加者たちがカテドラルへと帰ってきました。連休の中日とあって2つの現地学習が交通渋滞に巻き込まれたようです。  
午後6時から、4つのネットワークミーティングとテゼの祈りが行われました。その中の死刑廃止部会ネットワークミーティングでは、袴田さんの再審問題を西日本新聞社

が取材し、翌日の新聞に掲載しました。

3日目の午前8時半にカン・ウイル司教は空港へ向かいました。この正義と平和福岡大会で行われた全ての内容を教えてください。」と言われました。午前9時に事務局からのお知らせで始まり、その時「筑豊」に参加したカン司教の感想が読まれました。

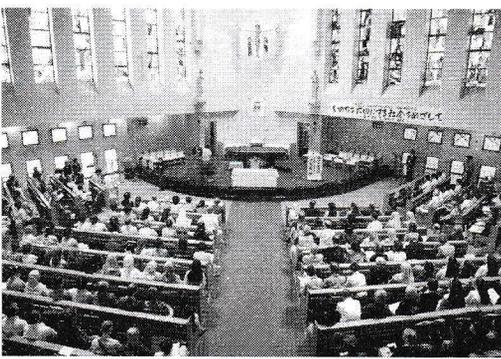
午前9時半シンポジウムの始まりです。「命を大切にする社会とは」をテーマに大塚司教と奥田牧師の対談、司会は森山神父が行いました。3人の息のピッタリあった対談は、素晴らしいものでした。時折ユーモアを交えながらも「命を大切にできる社会」にするための具体的な話に参加者は魅了されていました。  
派遣ミサでの宮原司教のお話も印象に残るものでした。

空爆が続くアフガニスタンを訪問した時のことを例に、現地の人々が望むのは「平和が欲しい」こと。しかしその頃の日本では国際貢献の名で油を米艦隊に補給していたことから、深く考えさせられたというものでした。

ミサ後の最後の挨拶で大倉神父は今回のテーマに触れて「見て、聞いて、知って、働く」ことが大切と述べ、来年は東京で全国大会が開かれることを案内し、目良副実行委員長への派遣の言葉で終了しました。

### 【今後の課題】

このようにあつという間の福岡大会でしたが、3日間の学びのすべてが「命を大切に



(一面続き)

する社会をめざし」た内容だったと思います。同時に大きな課題も見えてきました。準備当初から宮原司教が述べられたこと、「全国からたくさんの方々が集まります。イベントも大事だと思いますけれども、むしろ教区内で正義と平和のこの部門は、大事な領域です。福岡教区内での正義と平和の推進をはかっていると思います。」まさにこれなのです。

# 正義と平和の大会に参加して

大阪 F

カン・ウイル司教様の講演とても心打たれました。我々の知らない悲しい歴史がいくらかでもあるということですね。交流会で、中部の信徒の方、姫路の信徒の方とじっくり語りあうことができました。

シーゲル神父様の講演も良かったです。分科会では、松浦悟郎司教様の講演は現在の日本政治の危機的状況を的確に説明されました。最終日の奥田牧師と大塚司教のシンポジウムはお二人のユーモア

具体的に進めるにあたっては多方面からの議論が必要となりますが、そのような機会を与えられたことは大きな恵みだったと思います。特に信徒本来の使徒職が、より福音的な正義と平和の社会を実現していくために働くことにあるのですから、見えてきた課題と同じです。これからますますみなさまのお力が必要となっていくことでしょう。

(福岡大会実行委員会)

を交えながらも深い経験と信仰を背景とした洞察に満ちた発言が会場を埋め尽くしました。貴重な体験をありがとうございました。

鹿児島 A

私は、信者でもなく、初めてでしたが、素晴らしい大会をありがとうございました。

高校生平和大使の呼びかけ、「私たちは微力だけど無力じゃない」と未来への強いメッセージを感じました。シーゲル神父の話は、救いは社会と地球と良い関係を築

くことで未来につながっていることを気づかされました。3日間多くの気づきをいただき参加して本当に良かったです。



分かち合いのひとこま

戸畑教会 松下浩之

現地学習「筑豊」に参加しました。一言で言えば、いかに自分が何も知らなかったかがよくわかりました。訪問したところは、まず宮若市石炭記念館です。筑豊のことを学ぶには、石炭のことからこのことでした。次は飯塚市霊園内の国際交流広場と名付けられたところです。ここに建てられた納骨堂(無窮花堂)ムグンファ堂と碑文、歴史回廊を見ることで筑豊と強制連行、強制労働のことが少しわかつ

## 震災支援の働きから

三ヶ島 富美江(戸畑教会)

東北の方では、福島原発事故の汚染水の処理さえ、未だにきちんとされていない状態です。津波の被害にあった海岸は、どのようになるのか、見通しがついていないこと、また仮設住宅の生活から復興住宅に移られるところもあるようですが、仮設住宅での生活は、震災から4年目に入り、この間に一人ひとりの状態が変わり、悲しみや、辛さを共有できなくなっていると聞きました。

遠く離れている私たちは、なかなか現状を知ることができないので、情報を教えてくれたり、骨折って繋いでくださる方のいることはとてもありがたいことだと思っています。そして聞いたこと、知ったことから何もせずにはいられなくなる心や、小さな働きだけで与えられている仕事に、感謝や幸せを感じています。

私たちがバラバラでなく、一つになり自分の持っている力を、分かち合う場にもなっているからです。

私たちの小さな働きが、温かい心、強い社会になる助けになりますようにと、祈りながらこれからも、神様と共に東北の方々に、心を寄せ続けて行きたいです。

てきました。バスで飯塚市内を回りながら説明を受け、田川市石炭歴史博物館に到着。世界記憶遺産である山本作兵衛の炭鉱記録画を見た後、博物館横の韓国人徴用犠牲者慰霊碑を訪問。田川市の最も高い位置に建てられた碑は、地底での苦しみを二度と味わいたくない思いが込められていました。昼食は一億円トイレで有名な道の駅だそうですが、それは見落としました。圧巻は、日向墓地です。その墓地の入口には日本人が飼っていた

たペットのお墓があります。日本人の立派なお墓の間に石ころを置いただけのところが、ここが「炭鉱労働者のお墓」と説明されました。筑豊を象徴しているこの場合は、私たちの心に深く呼びかけるものがあり、ここで一緒に祈りを捧げました。その後、豊州炭鉱慰霊碑、最後に浄土真宗法光寺内にある朝鮮人炭鉱殉職者之碑「寂光」を見学。このような筑豊訪問で、いろいろなことを学んだ一日でした。

正義と平和全国集会福岡大会

カン・ウイル司教基調講演

① 二〇一四・九・十三

# 東アジアの平和と福音的展望

## 韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢観ながら

「セウォル号沈没事故から」

4月16日は韓国国民にとつて忘れられない事件となりました。セウォル号が沈没し依然10人が行方不明です。

韓国国民が常識として認識していたことが根底からくつがえされました。セウォル号が沈んでいくのをテレビで見ながら、自力で逃げられた人以外、誰一人助けられなかった事実がどうしても納得いかないのです。海軍艦艇や海軍特殊部隊も出動しましたが、警察との間に何があったのか、とにかく政府機関の間で協調



介入がうまくいかなかったのは確かです。時間が経つにつれ、さらにいろいろな不可解な事実さらされました。

まず最初にセウォル号は18年も航海した後、退役した日本の船を買い入れ、規定を無視して改造し、定期航路線に配属されたのですが、船の改造を許可する海洋水産部が、船の曳航に致命的な影響を与えてしまう構造にどうして許可できたのか、国民は誰一人納得できませんでした。

そして沈没の原因と見なされた積載過剰や固定装置が非常にいい加減だったこと。その検査責任を持つのが海洋水産部ですが、その任務を韓国海運組合がしていました。海運組合は、ある種の船会社の利益団体という性格を持ち、その利益団体に自分たちの船を検査させるといふ、行政と業者が一体となり互いの便宜

を計り、助け合っていたことが露わになりました。それでセウォル号事故の後、韓国では政府官僚と業者の癒着問題が、社会各分野全部にあり社会全般の構造的な不条理や不正に直結していることが明らかになってきました。しかし社会全般にわたっている不条理がそう簡単にぬぐいさられるわけではないと思いません。事故後、4ヶ月の間、犠牲者遺族と野党側は、事故の真相究明と責任所在解明のための特別法制定を要求していますが、政府与党は譲歩せず、政局は一步も前進できず滞っています。政府当局者たちは真実が露わにされることを怖れているのではないか。それを何とかして隠し、蓋をしごまかしたいのが本音ではないかと多くの国民はそういうふうに疑っています。

### 「フランシスコ教皇の訪韓」

そのためセウォル号の家族

たちは、特別法を要求してハンストに入りました。そのハンストの場所は列福式の行われるところです。しかし教皇到着までにその問題が解決されませんでした。私はハンス

トの現場を訪ね遺族たちと話し合い彼らの心境に耳を傾け慰めの言葉をかけました。遺族代表は、「自分たちの声に政府が耳を傾けそうにないの

でこのままだとハンストをやるわけにはまいりません。」と言いました。そして教皇が訪韓される数日前に記者会見で「今、広場でハンストをやっていますか？」との質問がありました。17万人以上の人が、この場に入るのですが教会組織を通さないこのセウォル号遺族たちをどうしますかと。これは教会にとって大きな課題でした。私はこう答えました。

「涙を流している人を追い出して、そこで愛の秘跡を行うことはできません。そういう状況の中でフランシスコ教皇が訪韓されました。

教皇は列福式ミサ前に、長い広場をオープンカーに乗って祭壇の方へ接近してきました。教皇はセウォル号の家族がいるところで車を降り、彼らに近づき、3週間以上ハンストを続けている犠牲者のおとうさんの一人に両手をおいて彼の肩を抱きながら慰めて

いました。そのおとうさんは教皇の手に自分の顔をつけてしばらく泣いていました。その場面をテレビで視聴していた韓国国民は深く感動し、大きな慰めを受けました。いろいろな新聞や放送が「フランシスコ教皇こそ本当の指導者の姿を見せてくれた。韓国で今まで見たことのない本当のリーダーの姿を、今日、私たちは見た。」と真心から出る賞賛の言葉を発しました。

「国民という言葉」

その少し前の話ですが、遺族の中から「国民の命が守れない国家は国家ではない。そんな国に住みたくない。」それを聞いた時、私は「国家とは一体何か」という問題を考えさせられました。国家は、国民の命や財産を守るために存在するのであり、国民が国家のためにあるのではないと思えます。国民という言葉は、国の民、どちらかというと、国家に重点がおかれ、国家を成立させるために存在する民、国家を維持する民という国家が優先され、民が後回しになっているのではないかという気がします。(次号に続く)

## Have you finished procedures to changeover your certificate to Foreigner's "Residence Card" ?

Dear foreign residents, have you switched your former certificate of alien registration to foreigner's "Residence Card" yet?

In July 2012, Japanese Government revised the Alien Registration Act. This revision aimed to manage all foreign residents living in Japan with no exception. Violators are strictly punished.

According to the revised law, permanent residents are also required to switch their certificate within three years: that means by June 2015, the latest date is July 9 2015.

There came an inquiry asking whether to switch his permanent resident visa to the "residence card" at the occasion of his next birthday. This type of misunderstanding still exists among special permanent visa owners and over 100 thousand of permanent residents. We are anxious if your visas are switched to "residence card" in time yet.

( Iwamoto Mitsuhiro )

### 在留カードへの変更手続きは終わりましたか

外国籍住民の皆さん。皆さんが持っている外国人登録証を在留カードに切り替える手続きは終わりましたか。

2012年7月に施行された今回の改定入国管理法は、日本に滞在する全ての外国籍住民を日本国政府が完全に管理することが目的で決められました。そのために違反者には厳しい罰則が決められています。

改定入国管理法施行が始まった2012年7月以前は、滞在許可の期間が残っている永住ビザの人たちは、今までの法律では一番長い人で7年後の誕生日に在留ビザを切り替えることになっていました。しかし政府は今回の改定で、3年以内に全ての外国籍の人たちの外国人登録証を在留カードに切り替えないといけないと決めました。切り替えの最終期限は2015年7月9日です。だから来年の6月中に必ず切り替えてください。

先日、私のところに「私は永住ビザを持っているので、今までどおり、次の誕生日の時に在留カードに変更したら良いと思いますが、それで良いでしょうか」という問い合わせがありました。永住ビザの人たちと特別永住ビザの人たちの中にこのように考えている人が多くいます。永住ビザの人で10万人以上の方が在留カードに切り替えていないことが分かっています。早く在留カードに切り替えてください。

(岩本光弘)

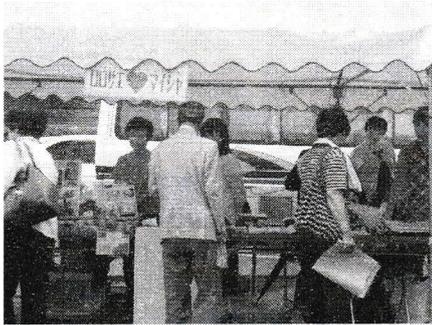
日本カトリック平和旬間(8月6日~8月15日)

平和献金 356,329円

8月10日  
(日曜日)

# 第14回 北九州平和の集い

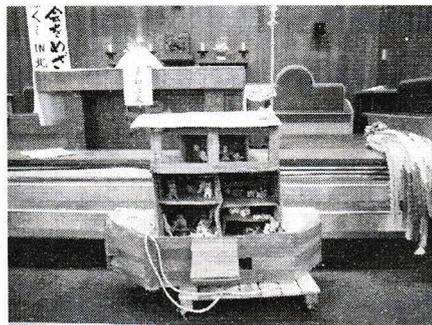
約350名参加



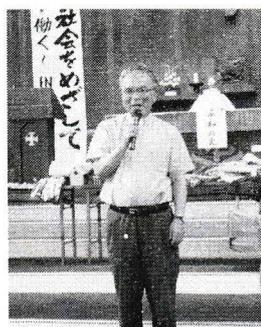
下関からの出店グループも恒例参加となりつつあります。



キリスト者9条のみなさんによる平和コトはわかりやすい。



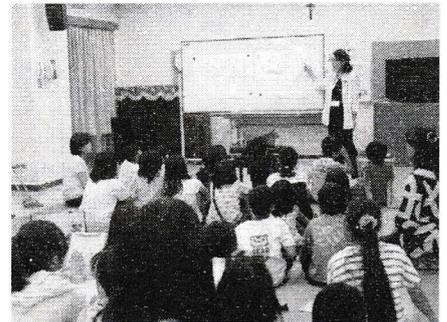
子どもの作品(平和奉納)



牧山神父の挨拶



バンド演奏と歌声が全体を盛り上げます。



子どもの広場(平和を考える)



福岡市の西新教会から青年たちが発表と歌を歌いました。とても爽やかでした。



子どもの広場で習った手話を聖堂で披露してくれました。



出店は様々なグループが集まります。

いのちを大切に  
する社会をめざして  
見て、聞いて、知って、働くと IN 北九州

北九州平和の集いが14年連続開催されました。様々な試行錯誤を重ねながら、毎年新たな工夫で北九州ならではの平和行事となっているようです。今年は台風が近づいてきたために前日まで心配しましたが、小倉教会のみなさまとダ

ルクの方々の献身的な働きのおかげで、小雨混じりの中、開催できたことは大きな喜びでした。また正義と平和全国集会福岡大会に連動したスタイルでメイン講師を中村彰神父にお願いし、講演も大好評でした。福岡市の青年たちの発

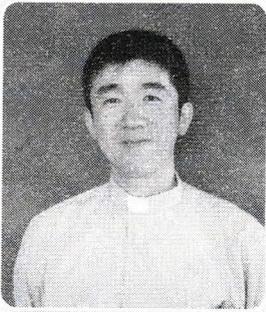
表も注目され、また平和献金額も例年と同じく多くありました。特徴的だったのは、短冊に書かれた祈りが、集団的自衛権や基地問題で日本の行く末を案じ、平和を願うものが増えたことです。祈りはきつと行動につながるでしょう。

# ニュースあれこれ

## ◆若松市民クリスマスのご案内

若松キリスト教連合では毎年、市民クリスマス会を開催しています。今年は「置かれた場所で咲きなさい」の著者であるシスター渡辺和子をお迎えし講演会を行います。たくさんの方の参加をお待ちしています。

\*日時 2014年12月20日  
(土)午後2時から4時(13時半開場です)



## 司祭紹介コーナー

新田原教会 主任司祭

フランシスコ・ザビエル

牧山 美好 神父

1970年生まれ 44歳  
大刀洗町出身

『司祭談』 16年ぶりに北九州地区に戻ってきました。助祭の頃、2年間、戸畑教会でお世話になりました。地区の行事では、なつかしい方々とお会いすることができうれしく思います。新田原には、果樹園と田畑、住宅地が広がっています。日中は築城基地を飛び立った戦闘機が轟音をとどろかせて急上昇していきます。新田原に住むようになって、この地には人を引きつける何かがあると感ずります。人々が苦勞して開墾したこの地の自然もまた、人を受け入れ、いのちを育むようになりました。開拓の歴史、果樹栽培が行われるようにになった経緯、ここにカトリック教会が存在すること、知りたいことがたくさんあります。

『信徒談』 美好神父の「ミサ」に対する気合の入れようは、尋常ではない。祈りの言葉一言一言ゆっくり、はっきり力強く、その所作も大きく深い。細身の体でどこからそんなエネルギーが出ているのか。神父にとって「ミサ」は真剣勝負そのものに相違ない。普段の神父はいつも遠慮がちにニコニコ、一見頼りなさそうに見えるが、いざ「ミサ」になると一変、そのギャップが面白い。ミサが終わると2~3kgは減っているかも。お陰さまで「祈りの教会」新田原小教区に益々磨きがかかりそうだ。新田原教会に赴任して半年、新田原にも慣れてきたようだが、激務の毎日、たまには行方不明になってストレス発散を、健康第一、そのための協力は惜しみません。

\*場所 若松市民会館  
\*講演テーマ「四人目の博士」  
\*講師 シスター渡辺和子さん(ノートルダム清心学園理事長)

\*参加費無料(先着800人)  
\*主催 若松キリスト教連合(若松バプテスト教会・日本基督教団浜ノ町教会、日本基督教団若松教会・バプテスト高須教会・カトリック若松教会)

◆2・11人権集会のご案内  
毎年2月11日は崔昌華(チヨ

エ・チャンホア)記念北九州人権集会が開かれています。(今年はカトリック小倉教会)来年はバプテスト教会も共に開催。1月中旬頃、ご案内致します。社会福音部会

◆正義と平和全国大会報告書が11月中に出される予定  
9月に開かれた大会をまとめたものが報告書として現在準備がすすめられています。大会を振り返り、今後の信徒使徒職活動の一助になれば幸いです。(大会事務局より)

## 編集室の窓

\*今年のレクレーション大会は台風の影響で中止、残念！来年こそ期待したいものです。  
\*教区初の「正義と平和、全国集会」で、社会問題と教会の教えは乖離したものではないことを改めて考える機会となりました。  
\*北九州地区信徒協をどのような活動団体にしたら良いのかと皿倉山の国民宿舎で話し合っただけでなく、今年が過

ぎたような気がします。当時のリーダーたちは「北九州を一つの小教区にしよう」というような活動を行って来ました。その結果で発行が始まったのがこの「信徒協だより」です。これも38号になりました。  
\*信徒協の様々な行事でたくさんの方にお会いする機会が増えました。そのため北九州地区のどの教会のミサに行っても、色々な方と話ができて「他の教会の敷居が低くなった」ように感じます。(岩本)

日付	教会名	時間
12月2日(火)	行橋	11:00, 19:00
12月3日(水)	豊津	19:30
12月4日(木)	湯川	10:30, 19:30
12月5日(金)	若松	19:00
12月5日(金)	直方	10:00, 19:00
12月6日(土)	田川	10:00
12月9日(火)	戸畑	10:30, 19:30
12月10日(水)	新田原	10:00, 19:00
12月11日(木)	飯塚	10:30, 19:00
12月12日(金)	水巻	10:00, 19:30
12月12日(金)	門司	10:00, 19:00
12月15日(月)	黒崎	11:00, 19:00
12月16日(火)	天神町	11:00, 19:00
12月18日(木)	小倉	10:30, 19:00

## 待降節共同回心式日程